

## 市民公開シンポジウム（参加費無料）

# シックハウス症候群・化学物質過敏症・電磁過敏症の最新知見と今後の展望

コーディネイター：北條祥子〔早稲田大学応用脳科学研究所招聘研究員（生活環境と健康研究会代表）〕

日時：2017年6月25日（日）13:15-16:15

場所：東海大学高輪キャンパス 2号館・2B101 教室

主催：日本臨床環境医学会 共催：早稲田大学応用脳科学研究所  
協賛：全国保険医団体連合会、室内環境学会、日本環境学会、東海大学

13:15 開会の挨拶

北條祥子（早稲田大学応用脳科学研究所・生活環境と健康研究会代表）

13:20 話題提供

座長：相澤好治（北里大学名誉教授）、吉野 博（東北大学総長特命教授）

1. 疫学調査からみた現状と今後の展望

北條祥子

早稲田大学応用脳科学研究所招聘研究員

2. アレルギー専門医からみた現状と今後の展望

西間三馨

国立病院機構福岡病院名誉院長

3. 成人過敏症患者の診療現場からみた現状と今後の展望

水城まさみ

国立病院機構盛岡病院呼吸器科専任部長

4. 小児過敏症患者の診療現場からみた現状と今後の展望

角田和彦

かくたこども&アレルギークリニック院長

5. 過敏症患者の歯科診療現場からみた現状と今後の展望

青木真一

秋田県協和町歯科診療所院長

6. 看護相談室の看護師からみた現状と今後の展望

今井奈妙

三重大学大学院医学系研究科看護学専攻教授

7. 環境システム工学から見た現状と今後の展望

柳沢幸雄

東京大学名誉教授

8. 健康リスク学から見た現状と今後の展望

東 賢一

近畿大学医学部環境医学・行動科学教室准教授

9. 法律家からみた現状と今後の課題

中下裕子

コスモス法律事務所弁護士

15:35-15:45 休憩

15:45 総合討論（会場との質疑応答など）

座長：坂部貢（東海大学医学部長）、石川 哲（北里大学名誉教授）

16:10 開会の挨拶

石川 哲（北里大学名誉教授）

16:15 終了（予定）

## 市民公開シンポジウムを企画した趣旨

近年、農薬・殺虫剤・除草剤の開発により農業は効率化し、パソコン、スマホ、Wi-Fi、無線LANなどの普及により、情報入手・発信が劇的に容易になり、私達は便利で豊かな生活を過ごせるようになりました。その一方で、今、世界各地で、“**環境過敏症（環境不耐症）**”と呼ばれる健康障害を訴える人が増加していると指摘され始めています。

**環境過敏症**とは、普通の人は何でもないような身の回りの微量な化学的要因（タバコ煙・化粧品・医薬品・殺虫剤・芳香剤など）、生物的要因（カビ・ダニ・花粉等）、物理的要因（音・電磁波など）により、多器官にまたがる多彩な症状が現れる健康障害の総称です。**アレルギー疾患**、**シックハウス症候群**（微量化学物質に起因するタイプ）、**化学物質過敏症**、**電磁過敏症**がその代表であり、これら4者は密接に関係していることが報告されています。**アレルギー疾患**は日進月歩で研究が進み、病態解明・診断法・治療法が確立しつつあるものの、次々と新知見が発表されています。**シックハウス症候群**は対策が進み、ある程度改善されてきましたが、診断基準や指針値の見直が議論されています。一方、**化学物質過敏症**と**電磁過敏症**は科学的に未解明なことが多いため、“**本態性（原因不明）環境不耐症**”とも呼ばれており、世界的に医療関係者や研究者の間でも、肯定派・否定派が混在しており、日本では認知度が非常に低い状況にあります。特に、**電磁過敏症**においては、発症者が症状発現要因と訴える身の周りの電磁波（電磁場）は、主として商用の非電離放射線（可視光、高周波、中間周波、超低周波等の様々な電磁波（電磁場）であり、発症要因と症状発現の因果関係が証明しにくく、世界的にも研究はようやくスタートラインについた段階です。

**環境過敏症**は、“生活習慣病と同様に、生活環境中の様々な環境要因が、遺伝要因、身体要因、などと複雑に絡みあって発症する健康障害ではないか？”と指摘する研究者が増えており、私も同感です。そして、科学的未解明な**化学物質過敏症**や**電磁過敏症**は、“医療関係者や研究者自身が正しい知識や情報を共有し、それを市民にわかりやすい形で提供することが重要だと考えます。それと同時に、”健康リスクの低減に関する個人レベルでできる対策には限界があるため、社会全体で対策を検討すべき時期にきているのではないか？”と考えます。社会的対策を検討するためには、様々な専門分野の研究者が情報を共有し、患者さんや市民の皆さんのご意見を聞き、模索しながら研究し、その成果を公表し、「予防原則に則した対策」を推奨することが不可欠ではないか？“と考えています。

日本臨床環境医学会は、臨床医学・歯学、薬学、看護学、疫学、健康リスク学、遺伝学、公衆衛生学、衛生学、建築学、化学、生物学、工学、社会科学など幅広い専門分野の研究者で構成されている学会です。そこで、今回、その最初の試みとして、学際的な市民公開シンポジウムを企画しました。疫学、臨床医学・歯学、看護学、健康リスク学、環境システム工学、法学等の分野から、長年、この問題に取り組んでこられた9名の先生方にお話しいただき、総合討論では、“私達は、**環境過敏症**のような健康障害の発症を予防するためにどう取り組んだらよいか？”について、皆様と一緒に議論したいと思います。盛りだくさんの内容ですが、最後までお聞きいただき、忌憚のないご意見を賜れば幸いです。

コーディネーター：北條祥子 [早稲田大学応用脳科学研究所招聘研究員（生活環境と健康研究会代表）]